

解禁日ご協力をお願い ニュースのワイヤー送信やウェブサイトへの掲載をはじめとするメディア使用の解禁日時：米国東部夏時間 2007 年 5 月 29 日午前 0 時 1 分、グリニッジ標準時 / 協定世界時 4 時、日本時間同日午後 1 時 1 分



THE WORLD BANK

Working for a World
Free of Poverty

ニュースリリース

News Release No. 2007/58/DEC

コンタクト：

Merrell Tuck (202)473-9516 mtuckprimdahl@worldbank.org
テレビ／ラジオ Cynthia Case (202) 473-2243 ccase@worldbank.org
Nazanine Atabaki (202) 458-1450 natabaki@worldbank.org

平井 智子(東京) 電話:03-3597-6650 thirai@worldbank.org

2006 年、途上国への民間資本フローは過去最高を記録するも伸び率は鈍化

ワシントン、5月29日－「世界開発金融 2007」によると、途上国への純民間資本フローは 2006 年に過去最高の 6470 億ドルを記録したが、2006 年の伸び率は 2005 年の 34% から 17% に低下した。資金フロー全体に占める割合を高めているのはヨーロッパの新興経済国である。また、エクイティ・ファイナンスがデット・ファイナンスをはるかに上回るペースで増加している。ドナー国による融資確約にもかかわらず援助フローはおもわしくなく、資金源は公的部門から民間部門への移行傾向が続いた。

世界銀行が毎年発表している同報告書は、過去数年間続いてきた途上国の急成長は金利上昇や新たなキャパシティの制約により失速し、世界全体の成長率も 2006 年の 4% から 2009 年には 3.5% 前後まで低下するであろうと予測している。こうした再編により、過去 4 年間にわたり多くの途上国にも波及していた好調な世界金融情勢も一部が抑制される可能性がある。

株式フローは 2006 年に 4000 億ドルを超え、資本フロー全体の約 4 分の 3 を占めるまでになっている（2004 年には 3 分の 2）。新興市場およびその他の途上国では株式投資と海外直接投資（FDI）の両方で堅調な増加が記録された。国境を越えた合併・買収の波に後押しされ、2006 年の途上国への FDI は過去最高の 3250 億ドルに達し、世界全体（1 兆 2000 億ドル）の約 4 分の 1 を占めることとなった。

2006 年、途上国の民間・国営企業のシンジケート・ローンおよび国際債券発行を通じた資金調達額は 3330 億ドルで、2002 年の 880 億ドルから急増している。地域別に見ると、ヨーロッパ・中央アジア地域の新興市場国の企業が突出しており、2006 年に債務総額が 1350 億ドル増加している。金融機関、特にインド、カザフスタン、ロシア連邦、トルコの銀行が、こうした顕著な外国融資ブームの最前線にある。

同報告書は、こうした開発金融の新たな特徴、とりわけ借り手が国家から民間企業へと移行していることによって、従来型のリスク評価に変化が生じ、経済成長や金融の安定にも重大な影響がもたらされそうであると指摘している。

「途上国への資本流入の急増はファンダメンタルズの向上を反映したものであるが、景気循環的要因も働いている。成長率が鈍化すれば回復力に富んだ国でさえ強い逆風に直面する可能性がある」と、世界銀行の開発展望グループ局長ウリ・ダドゥーシュは述べている。「ソフトランディングになると予想されてはいるが、当然そうなるとは言えない」

低所得国は、2006年も引き続き堅調な成長と商品価格の上昇からの恩恵を得たほか、近年の国際的な債務削減イニシアティブにより債務負担が削減され信用度が向上したことで民間債券市場を利用しやすくなっている。

2006年、全体的な債券市場の状況にはばらつきがあった。海外の銀行からの外貨借入れが堅調に増加した一方、新興市場経済による債券発行純額は減少している。多額の外貨準備を持つソブリン債発行者は対外借入れの必要性が低下しているためである。そうした国々は対外債務負担を削減して対外債務プロファイルを向上させている。多額の債務を買い戻し、より有利な条件の長期債を発行して既存債務の借り換えをした国もある。アルジェリア、ナイジェリア、ロシアなど数カ国は公的債権者への対外債務を返済した。その結果、2005-2006年にパリクラブや国際機関への元本返済額が実行額を1460億ドル上回り、民間部門からの純債務フローは4320億ドルに達した。

新興市場国では国家の外貨借入れが減少しているのに対し、銀行や企業による外貨借入れは増加している。

「新興市場の企業は多額の資金調達をしており、世界金融へのそうした企業の参入の波が途上国への現在のような資本フローのサイクルの明確な特徴となっている」と、**開発展望グループ国際金融担当マネージャで本報告書の主席執筆者でもあるマンスール・ダイラミ**は述べている。

「世界資本市場へのアクセスにより、企業は資金源を多様化し、より高度な資金調達手段を通じてリスク管理を向上させ、長期の借入れをし、資本コストを削減することができる」

過去数年間で資本市場の統合が急速に進み、途上国企業が海外で資金調達を行うようになるに伴い、外国での公募や上場に対する規制についての一貫性のある世界的アプローチが差し迫って必要とされている。同報告書は、規制当局や各国政府に対し会計基準の透明性や質への関心を高めるよう促している。また、投資家が情報に基づいた意思決定をできるようにするための信頼できる情報の重要性を強調すると共に、コーポレート・ガバナンスの完全性を向上させる施策を求めている。

一方、世界的に援助は失速している。開発援助委員会メンバー国からの政府開発援助（ODA）は2005年に1068億ドルに達した後、2006年には約1039億ドルに減少しており、2010年までにアフリカに対する開発援助の規模を拡大するというG8グレンイーグルズ・サミットでの公約が不安視される。

「2006年の民間資本フローの増大は途上国の回復力を示す十分な証拠であるが、その一方で純公的融資の減少と援助約束履行の遅れが生じている点が懸念される」と、**世界銀行チーフエコノミスト兼開発経済担当上級副総裁のフランソワ・ブルギニョン**は述べている。「最貧国の多くは依然として世界金融システムの末端にあり、民間資本だけでは基本的なニーズを十分に満たすことができない」

過去数年間の好景気が一助となり2006年の途上国の成長率は7.3%で、途上国は4年連続で5.5%を超える成長となった。地域別に見ると、サブサハラ・アフリカ地域が5.6%、南アジア地域が8.6%、中東・北アフリカ地域が5%、ラテンアメリカ・カリブ海地域が5.4%、ヨーロッパ・中央アジア地域が6.5%、東アジア・大洋州地域が9.5%で、昨年はすべての地域で成長率が5%を超えた。途上国経済でこれほど広範かつ著しい成長が見られたことはめったにない。

同報告書の著者らは、途上国の成長率は2007年に6.7%に減速した後、さらに鈍化して2009年にはより持続可能なペースといえる6.1%に向かうと予測している。一方、高所得国では米国経済の減速を反映して2007年の成長率は2.5%になると予想されている。2008年と2009年には、米国の景気が回復し日本やヨーロッパでも経済成長が続くことで高所得国の成長率は2.8%と予想されている。

ソフトランディングのシナリオが実現する可能性は高いが、途上国の状況が悪化するおそれがある。具体的には、米国の景気悪化が予想以上であった場合に輸出需要が減少し金融部門に混乱が生じる可能性、一部の新興経済国における過熱や不均衡の長期化により借入スプレッドやリスクが高まる危険などが挙げられる。さらに、小麦、トウモロコシ、米の備蓄が少ないためにこうした産物の価格が急騰するリスクが大幅に高まっており、最貧困世帯に重大な影響を及ぼす可能性がある。

- ### -

ジャーナリストの方々は、解禁前に下記のオンライン・メディア・ブリーフィング・センター (OMBC) より報告書をご覧ください。 <http://media.worldbank.org/secure>

OMBCへアクセスするパスワードをまだ取得されていない方は、下記ウェブサイトでお申し込みください。 <http://media.worldbank.org/>

報告書は、解禁後に以下のウェブサイトをご覧ください。 <http://www.worldbank.org/gdf2007>

関連資料は以下のウェブサイトをご覧ください。 www.worldbank.org/globaloutlook